

令和 7 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立市岡東中学校

令和8年3月

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪府立市岡東中学校協議会

1 総括についての評価

中期的な観点から見て、生徒が落ち着いた学校生活を送れるよう、年度を超えた継続的な対応を学校は行っている。

全国学力学習状況調査やチャレンジテスト、GTEC の結果は年々上昇してきている。落ち着いた授業の様子、先生方の授業指導力をあげようとする意識の向上など、日ごろから生徒、教師ともに努力していることが結果につながっていると思われる。ただし家庭学習の定着には同学年内で大きな隔たりがみられることが課題と思われるので、今後も家庭学習を含めた継続的な学習支援をしていく必要がある。

また、最も大きな改善点は不登校問題だと思われる。来年度から市岡中学校では SSR(スクールサポートルーム)が始まることもあり、これらの制度も活用して生徒全員が安心して登校できる環境を作ってほしい。

教職員がよく頑張ってくれているのは伝わる。その努力と連携が、外部テストの結果や端末活用率の向上に表れている。このまま努力の継続をお願いしたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標:安全・安心な教育の推進

◇ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 83%以上にする。

➤ R7: 83.1% 達成

◇ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

➤ R6: 17.24%、R7: 14.97%(2 学期末) 達成

◇ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

➤ R6: 29.0%、R7: 21.28%(2 学期末) 未達成

◇ 校内調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 79%以上にする。

➤ R7: 79.1% 達成

◇ 校内調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 91%以上にする。

R7: 88.4% 未達成

年度目標:未来を切り拓く学力・体力の向上

◇ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 48%以上にする。

- R7: 51.6% 達成
- ◇ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- R6: 3 年国語 1.04、数学 1.02、2 年国語 1.01、数学 1.16、1 年国語 1.04、数学 1.10
R7: 3 年国語 1.02、数学 1.10、2 年国語 1.03、数学 1.08、1 年国語 0.97、数学 1.00 未達成
- ◇ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 64%以上にする。
- R7: 64.0% 達成
- ◇ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 55%以上にする。
- R7: 60.0% 達成
- ◇ 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 86%以上にする。
- R7: 94.5% 達成
- ◇ 校内調査において、「平日 1 日の家庭学習の平均時間はどれくらいですか?(塾・家庭教師などを含む)」の項目について、「1 時間以上」と回答する生徒の割合を 62%以上にする。
- R7: 55.3% 未達成

学びを支える教育環境の充実

- ◇ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- R7: 57.5%(12 月末) 達成
- ◇ 学習者用端末にある「スクールライフノート」の活用を週 3 回以上実施する。
- 週 5 日実施 達成
- ◇ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 43%以上にする。(基準 1:1 か月の時間外勤務時間が 45 時間以下かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下)
- R7: 50.0%(12 月末) 達成
- ◇ 学習者端末にある各種機能を教職員が理解し、授業や家庭学習において活用できるように取り組む。
- 各種機能のアクセス場所を集約させ利便向上を図った。多くの教職員が新たな活用方法を開拓し実践している。達成
- ◇ 繁忙期を除いて毎日の完全退勤を 19 時とする。
- ほぼ実現できているが、事務室業務が非常に多く、目標通りになっていない。未達成

・不登校生徒への対応は複数の立場の職員が連携して改善に取り組んでくれているのがわかる。今後、多くの生徒が教室に戻れるようになってくれるのを期待する。

・チャレンジテストや英語の GTEC の結果は全体的に大阪市や大阪府より数値がよく評価できる。生徒がより意欲をもって学習できるようこのまま努力を続けてほしい。

・持ち帰りパソコンを活用している機会が増えたのは素晴らしい。スタディサプリも活用して家庭学習に取り組む環境ができていることは保護者としてもありがたい。今まで家庭学習を今まであまりしていなかった生徒が自主的に勉強するようになることを望む。

・生成 AI を生徒も先生も有効活用して学びが深まるのは評価できる。ただし生徒があやまった使い方をしないよう、丁寧に指導してもらいたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

授業理解度は高いものの、家庭学習時間が目標に届かず、チャレンジテストの結果(特に1年生の国語・数学)に結びついていない。「教え方」の向上に対し、生徒の「学び方(自学自習)」の確立を目指していく。

本校の最も大きな改善点は不登校問題だと思われる。来年度から市岡中学校では SSR(スクールサポートルーム)が始まる。これらの制度も活用し教職員が連携して生徒全員が安心して登校できる環境を作っていってほしい。